

【以下の文を読んで、次の各問いに答えよ】

(配点…五十点 時間…二十分)

花の咲き散るをりごとに、乳母なくなりしをりぞかしとのみあはれなるに、同じをりなくなり給ひし侍従の大納言の御むすめの手を見つつ、^あすずろにあはれなるに、五月ばかり、夜ふくるまで物語をよみて起きみたれば、来つらむ方も見えぬに、猫のいとなごうないたるを、おどろきて見れば、いみじうをかしげなる猫あり。いづくより来つる猫ぞと見るに、姉なる人、^ア「あなかま、人に聞かすな。いとをかしげなる猫なり。飼はむ」とあるに、いみじう人なれつつ、かたはらにうち臥したり。尋ぬる人やあると、これをかくして飼ふに、すべて下衆のあたりにもよらず、つと前にのみありて、物もきたなげなるはほかさまに顔をむけてくはず。姉おととの中につとまとはれて、をかしがりうたがるほどに、姉のなやむことあるに、ものさわがしくて、この猫を北面にのみあらせて呼ばねば、かしかましくなきののしれども、なほさることにてこそはと思ひてあるに、わづらふ姉おどろきて「いづら、猫は。こちみて来」とあるを、^ウ「など」と問へば、「夢にこの猫のかたはらに来て、おのれは侍従の大納言の御むすめのかくなりたるなり。さるべき縁のいささかありて、この中の君のすずろにあはれと思ひ出で給へば、^②ただしばしここにあるを、このごろ下衆の中にありて、いみじうわびしきことと言ひて、いみじうなくさまは、^イあてにをかしげなる人と見えて、うちおどろきたれば、この猫の声にてありつるが、いみじくあはれなるなり」と語り給ふを聞くに、いみじくあはれなり。その後はこの猫を北面にも出ださず思ひかしく。

注(1) 北面…召使たちの部屋

問一 傍線部あ、いの本文における意味を次の中から一つずつ選べ。(各三点 計六点)

- あ すずろに 一、嬉しく 二、さびしく 三、少し 四、肌寒く 五、なんとなく
い あてに 一、高貴で 二、やたらと 三、一段と 四、慕わしく 五、憎らしいほど

問二 傍線部ア、ウの本文中における意味を書け。(各四点 計八点)

問三 傍線部うの文法的説明として適当なものを次の選択肢から選べ。(五点)

- 1、動詞「来」の連用形+完了助動詞「つ」の未然形+推量「む」の連体形
- 2、動詞「来」の連用形+完了助動詞「つ」の終止形+現在推量「らむ」の連体形
- 3、動詞「来」の終止形+強意の助詞「つ」+動詞「あり」の未然形+推量助動詞「む」の連体形
- 4、動詞「来」の終止形+強意の助詞「つ」+現在推量「らむ」の連体形

問四 傍線部①、②の主語として最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ選べ。(各三点 計六点)

- 一、乳母 二、侍従の大納言 三、侍従の大納言の娘 四、姉 五、猫 六、下衆 七、筆者

問五 傍線部え、おを現代語訳せよ。(各六点 計十二点)

問六 筆者が、傍線部か、のように考えた理由を簡潔に書け。(十点)

問七 本文は「更級日記」である。本作品より前の年代に成立した作品を次の中から一つ選べ。(三点)

- 一、とりかへばや物語 二、伊勢物語 三、大鏡 四、今昔物語集 五、宇治拾遺物語